

大豆子実の加害害虫をまとめて防除

概要 Abstract

大豆子実を加害する**カメムシ類**被害の防除は、同じく子実を加害する**マメシクイガ**の防除法に準じ、ほ場の半数の株の莢が2~3cmに伸長してから**約6日または16日後**のいずれかに、**シフルトリン乳剤またはA剤**を散布すると高い効果が得られます。



カメムシ成虫



マメシクイガ成虫

成果 Results

表1 各種殺虫剤の防除効果

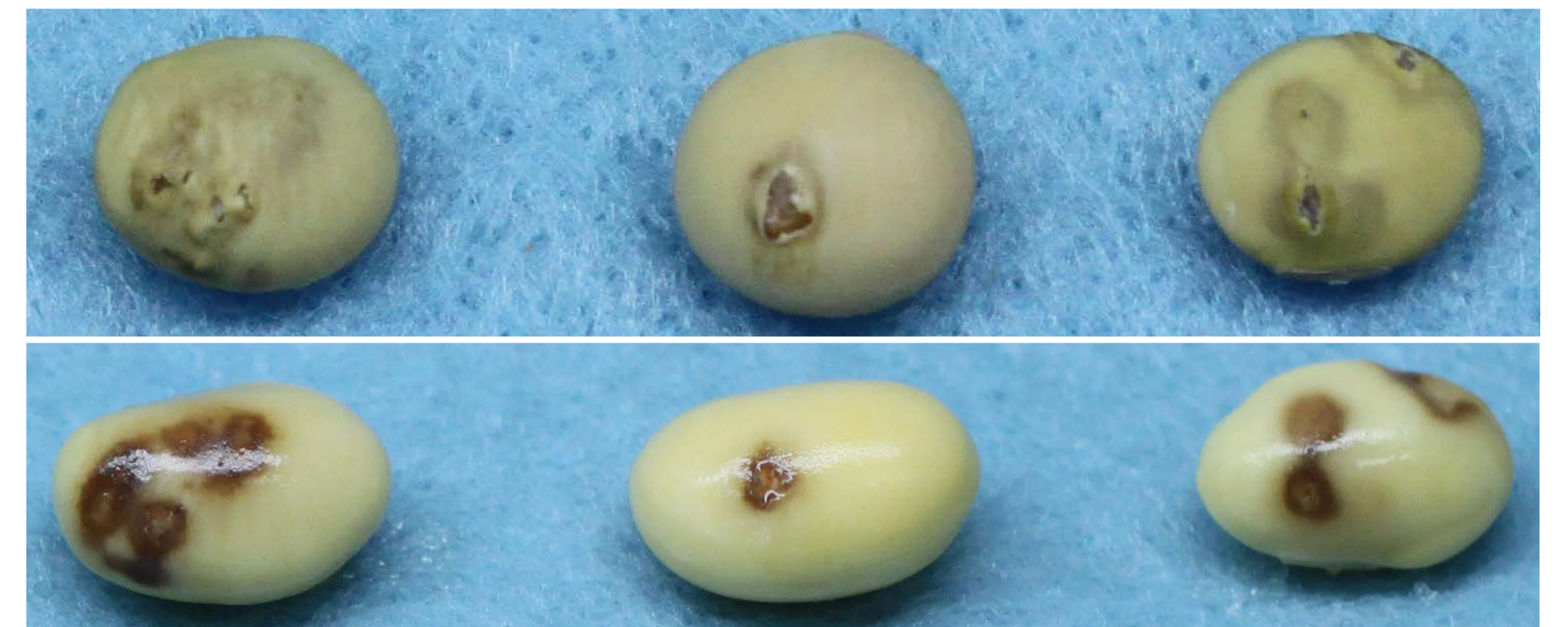
系統名	薬剤 ^{※1}	カメムシ		マメシクイガ	
		試験例数	無処理比平均 ^{※2}	試験例数	無処理比平均 ^{※2}
ネオニコチノイド	ジノテ	3	59.5 (×) ^{※3}	0	—
	クロチ	3	56.5 (×)	0	—
	チアメ	3	85.7 (×)	0	—
ピレスロイド	シフル	5	4.4 (◎)	2	5.6 (◎)
	A剤	5	8.4 (◎)	7	2.3 (◎)
	エトフェ	3	23.0 (○)	4	19.3 (○)
有機リン	MEP	3	46.7 (△)	0	—
ジアミド	クロラ	—	—	2	2.0 (◎)

※1 薬剤名は、以下のとおり省略した(表1,2共通)

ジノテ：ジノテフラン水溶剤SG、クロチ：クロチアニジン水溶剤、チアメ：チアメトキサム水溶剤SG、MEP：MEP乳剤、PAP：PAP乳剤、シフル：シフルトリン乳剤、エトフェ：エトフェンプロックス乳剤、クロラ：クロラントラニリプロール水和剤F

※2 無処理比は、数値が低いほど効果が高いことを示す。

※3 ◎：高い効果有り、○：効果有り、△：低い効果有り、×：効果無し



大豆の**カメムシ類**被害粒(上)
被害粒を水浸した時の様子(下)

効果の高い殺虫剤は？

シフルトリン乳剤またはA剤が、カメムシ類に対する防除効果が高い薬剤です。これらはマメシクイガにも高い効果を示します(表1)。

防除適期は？

カメムシ類の被害粒を効果的に抑制できる防除適期を調査した結果、ほ場の半数の莢が2~3cmに伸長した時期(莢伸長始)から**約6日後または16日後**となりました。これらは、マメシクイガの防除適期と一致します(表2)。

表2 莢伸長始の6日後と16日後に防除した時の被害粒抑制効果

1回目散布 ^{※1}	2回目散布 ^{※1}	2017年				2018年			
		現地Aほ場		現地Bほ場		十勝農試			
		カメムシ	マメシクイガ	カメムシ	マメシクイガ	カメムシ	マメシクイガ		
シフル	MEP	8.1 ^{※2}	0.0	3.5	0.7	1.7	0.0	0.9	0.3
シフル	PAP	—	—	—	—	9.0	0.0	—	—
A剤	MEP	—	—	—	—	—	—	0.9	4.5
クロラ	シフル	1.6	0.0	6.3	0.0	5.4	2.1	3.6	0.0
クロラ	A剤	10.1	0.0	6.9	0.4	5.0	2.0	4.6	1.7
無処理区の被害粒率 ^{※3}		3.3%	0.2%	13.4%	11.4%	2.2%	5.6%	3.4%	9.4%

※1 1回目散布：莢伸長始6日後、2回目散布：莢伸長始16日後

※2 各処理区の数値は、被害粒率の無処理比(数値が低いほど効果が高いことを示す)。

※3 無処理区の数値は各害虫による被害粒率を示した。

普及 Dissemination

- 既存のマメシクイガ防除方法に組み入れることにより、大豆子実を加害するカメムシ類とマメシクイガの同時防除に活用できます。
- 本成績は、十勝管内の中粒大粒大豆ほ場ですべての試験を実施しました。
- 2018年末現在、A剤は大豆のマメシクイガに対する農薬登録はありますが、大豆のカメムシ類に対する農薬登録はありません。

連絡先 Contact

十勝農業試験場
研究部 生産環境グループ
0155-62-2431
tokachi-agri@hro.or.jp